

# 漁村文化の再発見！ ～未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選～



高知市丸の内  
高知県海洋局  
発行人 久保田寿一  
編集人 海洋企画課  
定 価 無料

本県の漁村には、地域色豊かな食文化や伝統行事、あるいは優れた景観などが数多く残されています。最近ではこれらの価値を再認識し、情報発信や都市と漁村の交流などに活用することによって、地域の活性化につなげる取り組みが拡がっています。今回は、漁村に残る歴史的な文化財産を認定することにより、都市と漁村の交流や漁業、漁村への理解を促進するために行われた水産庁主催の「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選」で選定された県内の3つの漁村文化財産についてご紹介します。



伊尾木漁港の石積堤

## ■伊尾木漁港の石積堤

伊尾木漁港は、江戸時代の終わり、漁港整備のため内港の開削に着工され、石組みの防波堤の建設が始まりましたが、藩の財政難から工事は一時中断され、その後、放置された窪地には水が溜まり、河野池と呼ばれました。

しかし、何時の頃からか様々な土木工事を手がけた野中兼山にちなんで「兼山のあほう

と呼ばれるようになりました。しかし野中兼山が活躍したのは江戸初期で、兼山の死後着工された伊尾木漁港とは縁もゆかりもないとのこと。地元漁業者の悲願だった港の建設は昭和48年に再開され、150年の歳月を経た平成12年に完成しました。今回認定された石積みは昭和50年代に発掘調査が行われたもので、現在その一部が漁港内に保存されています。



期間限定で釣り堀も催されます

## ■室津港

## ■金剛頂寺



卓越した土木技術で野中兼山が築造した捕鯨船団の母港



名捕鯨師が建てた捕鯨の資料館や近代的な捕鯨の資料館がある

## ■鯨浜



捕獲した鯨を解体した室津市の浮津の浜

寛永元年(1624年)に始まる土佐の突き取り捕鯨は、室戸の津呂組、浮津組という二つの鯨組が、和歌山県太地から網掛け突き取り法を導入したことで飛躍的に捕獲頭数が増加し、以降商業捕鯨が休止となる1987年まで約350年間にわたり、日本捕鯨業の中心として発展してきました。今回認定された室戸地区には、近代捕鯨においても泉井守一氏など数多くの捕鯨人を輩出するほか、江戸時代以来の捕鯨に関する様々な史跡や頭章碑などが数多く残されています。



市場内の賑わい

## ■久礼大正市場

既に知名度の高い大正市場ですが、その始まりは、明治時代の中頃から、漁師の女将さん達が夫や息子の獲ってきた魚を売り始めたのがきっかけです。

大正4年に市場周辺一帯の230戸が焼失する大火事に見舞われた際、大正天皇より当時のお金で3500円が復興費として届けられました。これに深く感激した町民がそれまでの地蔵町とおりという名前を改め、大正市場と命名して以来約90年間、町民の台所というそのまますたイルで栄えています。

## ■歴史の再発見を

県内各地の漁村には、これら以外にも文化財産や面白いエピソードが数多くあります。皆さん、漁村へ出かけて歴史を再発見してみませんか。

きれいな漁場を次の世代に  
●適正給餌に努めましょう  
●漁場へのゴミ投棄はやめましょう

## 漁業経営のことなら、 今すぐお電話を！

専門アドバイザーが、漁業経営、流通改善について無料でご相談に応じます。まずはお電話を！



- 漁業経営指導協会 tel 088-825-3980
- 上原アドバイザー tel 090-1570-4904

## 【コラム】 「2007年問題」

高度経済成長期を担ってきた団塊の世代が大量退職を迎え、日本の産業を根底で支えてきた技術の継承が社会問題化している。世界で初めて到達するであろう高齢化社会を憂慮するよりも、コンパクトな経済規模の成熟した社会や福祉の仕組みづくりを期待したい。当然近い将来の漁村の姿も、団塊の世代の動向を織り込むべきだ。今こそ漁村資源を再発掘し、団塊の世代のニーズに備える必要がある。

【編集後記】授乳に忙しい母を後目に、冬は温泉親子で二人で制覇。近隣の温泉は、息子のベスト1は山間の鄙びた感の山霧天風呂。「は～、極楽動も末恐ろしい4歳児である。